

## 2022年度 子ども第三の居場所事業 報告書

事業名：大阪府摂津市における「子ども第三の居場所」コミュニティモデルの運営

団体名：公益社団法人 青年海外協力協会 拠点名：JOCA 大阪

助成金額：9,280,000円 事業費総額：9,280,000円 ※2022年4月時点

### 1. 事業の目的

- ・子どもが大人や高齢者など、様々な世代・立場の地域の人と交流することによって「生き抜く力」を育む。
- ・子どもとの交流によって地域の人々の幸福感や生きがいを高めることも狙いとする。

### 2. 実施内容

#### ● 通常開所

- ・場所：JOCA 大阪（〒566-0024 大阪府摂津市正雀本町 1-20-7 第2文化）
- ・開所時間：火曜日～土曜日 10:00～18:00 ※祝日を除く
- ・子ども延べ来場者数：約4,000人/年 ※2022年度実績

JOCA 大阪は受託業務として開発教育事業を中心に行っており、その運営業務を行う事務所である。事務所に地域の誰でも立ち寄れるフリースペースを併設することで、子どもから高齢者まで多世代の方々が安心して過ごせる居場所を作っている。フリーWifi や 50円セルフサービスコーヒーがあり、フードなど持ち込みOKで利用料も登録料も不要。



#### 【1階スペース】

コーヒーマシン、いすや机、コミュニティキッチンなどがある。コーヒーを飲んだり、囲碁をしたり、ゲームや宿題をしたり…自由に過ごす。



#### 【2階スペース】

広く大きな畳部屋。2階も誰でも利用OKだが、基本子どもの利用が多い。子どものいない朝の時間は、地域の方に貸し出してヨガ教室や講座などで利用してもらっている。

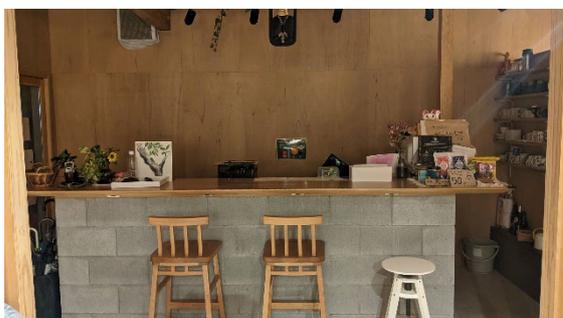
● キッチン改装工事実施

・ 工事期間：2022年9月1日～10月10日

・ 改装費用：6,506,962円（設計監理料：550,000円 建設費：5,956,962円）

・ 改装工事前後写真：

【改装前】



【改装後】



- コミュニティキッチンの運用開始

- ・目的・背景：

キッチン部分を改装し、地域の方に利用していただくコミュニティキッチンをつくった。「誰かにご飯を食べてもらいたい」人がキッチンを利用し、「誰かのご飯を食べたい」人が集まって楽しくご飯を食べ、地域の居場所機能を高めることを目的とする。

- ・利用例：

- 【お総菜出前販売】

JOCA 大阪近くのおにぎり屋さんが、毎週水曜日 11:00~14:00 にお総菜を JOCA 大阪で販売している。2022 年 6 月から小さなスナックで、間借りでおにぎりとお総菜を販売されており、どれも 50 円~100 円で破格な値段で、地域の方から大変好評であった。店主さんのお人柄や店主さんの「誰かにご飯を食べてもらうのが大好き」という温かいお気持ちが、まさに JOCA 大阪のコミュニティキッチンにぴったりであり、ぜひキッチンを使っていたきたいと思い、JOCA 大阪職員が店主さんにお声がけし、出前販売が実現した。

あまったご飯ものを無料で子どもに配布していただくこともある。



- 【子ども食堂】

「JOCA 大阪地域周辺で子ども食堂を増やしたい」という熱い思いを持った方が JOCA 大阪にたまたま来られ、コミュニティキッチンの話をしたところ、「ぜひコミュニティキッチンで子ども食堂を実施したい」と言っただけ、毎月 2 回 JOCA 大阪で子ども食堂を開催していただくことになった。大人は 300 円、子どもは無料。毎回大人も子どももそれぞれ 20~30 名ほど集まっている。



- イベントの不定期開催

JOCA 大阪自主企画や、JOCA 大阪の場所を貸し出して地域の方主催・企画という形でイベントを不定期で開催している。極力 JOCA 大阪自主企画は控え、地域主体で開催していただくようにしている。また年に数回ほどお世話になっている団体が開催しているマルシ

エやイベント出店もさせていただいた。

・ イベント例：

#### 【まんぷく祭り】

主催：JOCA 大阪

目的：JOCA 大阪 4 周年を記念して、日ごろお世話になっている地域の方や子どもたちに感謝の気持ちを込めて、地域みんなが楽しめるお祭りを開催する。

来場者数：約 200 人

内容：焼うどんやフランクフルトなどの飲食販売、ヨーヨー釣り、マジックショー、等



#### 【クリスマスマルシェ】

主催：地域の手作り作家さんたちの会

目的：親子で楽しめる機会を作る。

内容：カレー販売、アクセサリや雑貨の販売、大学生によるワークショップ、等



### 3. 成果

- 子どもの来場者数が、かつては0名の時もあったが、2022 年度においては平均 15 名程度/日で、子どもの数は確実に増えている。
- 大人や大学生、高齢者にも居場所として使っていただいているため、「自然な形で」大人の目が届く安全な居場所として子どもたちに認知されている。
- コミュニティキッチンができ、お総菜販売や子ども食堂の開催が実現したことによって、元々利用が少なかった子連れのママさんたちの利用が多くなった。
- JOCA 大阪ですべての役割を担うのではなく、JOCA 大阪は場所を貸したり何かをやりたいたいという大人たちを繋いだりするプラットフォーム的な役割を担い、うまく地域と融合する形で居場所を運営することができている。

#### 4. 所感

本来別の職務を行っている職員にとっての「事務所」機能と、子どもを含めた地域の方々にとっての「居場所」機能をどのようにして成立させるか？が、長年の課題であった。そのような中で、多世代の地域人が集まるという JOCA 大阪の特徴を活かして、地域の人たちが「自然に」子どもたちを見守る雰囲気を作れるようになったのは、大きな成果であったと考える。今後も地域主体の居場所を継続できるように、職員は常に地域の人達同士をうまく繋いでいくように意識することが大切であると考えている。